

こけだま
お手入れのあれこれ



水やり



1. 渴きを確認

こけだまを触る、手にとる。水気を感じなかったり、重さを感じないほどに軽かったら、それは水やりの合図。



2. 吸水

水を入れたバケツに、こけだまを沈める。こけだま全体が浸かるほどの水かさにするのがポイント。約5分。プクプクと出てくる水泡が出なくなるまで。



3. 水気を払う

吸水が十分にできたら、バケツから取り出す。水の滴りが止まるまでしっかりと水気を払う。



4. お皿に戻す

水気を払ったら、お皿の上にこけだまを再び置く。

水やり前と後で、こけだまの重さ、こけの色が異なるのがはっきりとわかる。

置き場所



こけだまは生き物。

水だけじゃなく、日光や風も大事になってくる。

ポイントは 明るい日陰 で、風通しのいい ところ。

屋外なら玄関口、屋内なら窓辺やリビングがおすすめ。植物には光合成が必要。ただし、直射日光には当て過ぎないように。





じめっとした環境に置きたくなるかもしれない。

だけど、ジメジメしたようなところは苦手。

過湿状態や暗い日陰は避けたほうが

いい。お皿の上に水が溜まっているのもNG。

湿度、蒸れはこけだまの天敵。

おなやみ相談

Q. こけが茶色くなってしまった！
枯れちゃったの？

A. 水のあげ過ぎで、こけが腐ったのかも

こけの変色は過湿のサイン。

水のあげ過ぎ、もしくはお皿に水が溜まったままにしておいたのかも。水やりのペースを減らして。

古く茶色くなったこけを剥がして、新しいこけを張り替えるのも一つの手。

Q. 冬になって木から葉が落ちた！
こけだまはもうおしまいなの？

A. 葉が落ちるのは自然なこと

季節が変わると、花が散ったり、葉が落ちたりする。でもそれは当たり前。植物だって生きている。

重要なのは根の部分が生きているかどうか。

次の年になって、新しい芽が出てくるかもしれない。

葉が紅葉するかも、かわいい実が成るかもしれない。

根だけ茎だけになっても、植物は生きている。

Q.肥料はあげなくていいの？

A.こけには必要ないけど、植物には大事

こけはわずかな光や空気の中から養分を生み出す。

だから肥料は基本的に必要ない。

でも、植えられた植物には必要不可欠。

液体肥料を水でうすめたものをスプレーするか、
バケツに入れてこけだまを浸す。

植物が成長する春と秋、年に2回程度でいい。

Q.こけだまはどのくらい持つの？

A.1年か2年、それ以上かも

キチンと水やりをして大切に育てていれば、1年や
2年くらいは平気。

それ以上でも大丈夫、だけど植えられた植物の根が
色んなところに張り巡らされて、窮屈になるかも。

糸を切って、庭に植えるのも一つの手。

何十年後かに、立派な大樹になる日を夢に見ながら。

苔玉の木



ヤブコウジ

花言葉は『明日の幸福』

春から夏にかけて花が咲き、秋には赤い実がつく。

人気がある木で、昔は高値で取引されていたこともあるとか。



モミジ

花言葉は『遠慮、自制』
秋の代表的な木の一つ。
秋に紅葉し、綺麗な赤色の葉をつける。

カエデ

花言葉は『遠慮、自制』
秋の代表的な木の一つ。
モミジとカエデは同じ種類の木であり、違いは葉の切れこみの深さ。





ナナカマド

花言葉は『慎重、賢明』
秋には真っ赤に紅葉し、
赤い実をつける。
燃えにくい木として有名
で、名前の由来とも言わ
れている。

ユキノシタ

花言葉は『切実な愛』
早春の木。名前通り、
雪の下から葉を出す。
脈に沿った白い模様が
特徴的。



苔玉の木



ブナ

花言葉は『繁栄』
ギザギザした葉が特徴。
魚沼のいたるところに
生えている。木は重く
曲がりやすい。



二つ三つの木が植えてある苔玉も。
全部一つだけの苔玉、色々観察してみてね。

作っている団体

福山新田地域の茶の間
『よらん会』



読んでくれて
ありがとう！

